

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 扶桑薬品工業株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 541-0045 大阪府中央区道修町1丁目7番10号	
本票作成	部署名：生産本部 岡山工場 施設課				
主たる業種	分類コード	16	業種名：化学工業		
事業の概要	医薬品製造 従業員：315人				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	岡山工場		岡山県浅口郡里庄町里見9033番地	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス	基準年度 (令和 5 年度)	( 令和 6 )年度排出量	目標年度( 令和 6 年度)
排出量	5,176 t CO <sub>2</sub>	5,692 t CO <sub>2</sub>	5,124 t CO <sub>2</sub>
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和 6 )年度排出量
	①	岡山工場	5,692 t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間：	令和 6 年度	～	令和 6 年度	( 1 箇年度)
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 6 )年度削減実績	目標削減率	目標達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 4.5 %	1.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達	

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 6 )年度	目標年度
	生産金額	57.042 t CO <sub>2</sub> /(億円)	59.583 t CO <sub>2</sub> /(億円)	56.472 t CO <sub>2</sub> /(億円)

(該当事業者のみ記入)				
ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和 6 年度)	達成率等
指標の状況				

【削減状況の自己評価】

- ・生産設備の環境については生産時・非生産時に限らず維持管理が必要であり、年間を通して空調機等のユーティリティー設備を運転しなければならない。又、2024年度は前年度に比べ夏季の外気温度上昇が記録的であり、空調に必要な冷水発生設備の負荷が増大した。
- ・都市ガス排出係数を基準年度は代替値2.05t-CO<sub>2</sub>/千m<sup>3</sup>を引用し、令和6年度はガス供給業者公表値2.29t-CO<sub>2</sub>/千m<sup>3</sup>を引用した。このため、都市ガスのCO<sub>2</sub>排出量が増加した。

以上の理由により、削減目標に達しなかったと考える。

【推進体制】

- ・省エネルギー法に基づきエネルギー推進者を中心としたエネルギー管理組織を編成。
- ・各工場では、エネルギー管理責任者を中心に省エネルギーを推進している。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
岡山工場	<p>(令和6年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空気圧縮機の更新（2基） 合計CO2削減量：6tCO2/年</li> </ul> <p>(今後実施予定分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LED照明の更新 工場棟3F FC課 包装室 合計CO2削減量：5tCO2/年</li> </ul>

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

- ・機器の更新及び新設時は省エネルギー性の高い物を選択する。
- ・省エネルギー実施の為、既設製造ラインにエネルギー計測器（電力・エア）及び非生産室に温湿度測定器を設置し見える化を強化する。
- ・増エネルギーと成る冷房設備の電力使用量を測定し経過観察を行う。
- ・電力はデマンド制御を行い設定値を超過させない。
- ・新入及び途中入社員研修時に省エネルギー及び環境の教育訓練を実施する。